私はコッコロ
女神アメス様より
主さまのお世話を
任じられております

美食殿での生活も長く
皆さまとの絆も
深まってきており

特に主さまとは…

昨晩の夜も…

沢山のキスを
していただきました

もう幸せで幸せで…

ぽぴぷ

ドキ♡ ドキ♡

この先も主さまと
ずっとずうっと
歩いていきたい…

だからコッコロは
頑張ります！

もっと
もっと

『やあ、君が今日から
働いてくれる子だね』

『はい、コッコロと
申します』

『待っていたよ』

『早速案内しよう』

主さまのために…

『あの…この匂いは何で
ございましょう…
とても…甘い…？』

『ちょうど今、料理の
真っ最中でね』

『その匂いだよ』

『デザートか
何かでしょうか？』

『ああ、とてもいい
食材が入ってねぇ』

『今から「孕ませる」
所なんだ』

『それはどういう…』

なんでしょう…

とても…眠く…

『やあ、お目覚めかい』

『…い…依頼主さま これはいったい…!?』

!?

はっ

はっ

『私も美食家でねぇ』

『君のような育ち盛りの子を頂くのが大好きなんだ』

『言っただろう?』

『とても良い食材が手に入ったとね』

『それは君のことだよ コッコロ君』

『特に成熟しきっていない果実を食すのが至上の喜びでね』

『う…動けない…力が…』

『まさかあの香りは…』

『その通り、牝を痺れさせ、快楽を与えてくれる…いわば媚薬だ』

『私のはとても大きいからねぇ』

『だが時期に気持ちよくなる』

ぐぐ…

『ひっ!!』

『では頂くとしよう』

『まだ熟してない極上の果実』

『おやめください!!』

『入るわけが…!!』

ない…

『クックッこのピッタリ閉じて拒んでいる割れ目』

『フンっ!』

ぐちゅ

『だ…めっ…っ!!』

『裂け…っ』

『これを待ち望んでいたのだよ!!』

『ぬおおっ!!』

『〝あ〟ぁっ』

ぐぐぐ…

『ヌウウウンっ!!』
『あ゛あ゛あぁぁぁ…っ!!』
『素晴らしい!!』
『実に素晴らしい締め付けだ!』
『…そんな…』
『初めては…主さまに…』
『心配せずとも、これからは私が君の主だ』
『いや…いやでございま…す…!!』
『ククク、いいぞ』
『抵抗する意思と肉棒を押し出そうとする肉壺、どちらもイキがよい!』
『くる…し…っ!!』
『主…さま……っ』
『少し早いが奥もほぐさねばな!?』
『あ…っ…やあ…!!』

『フンっ!!』

『フンフンっ!!』

『…"やぁあっっ!!』

『『フン…っ!!』』

『"あ"あ"あ"あっ!!』

『私の剛直をここまで加えこんでくれるとは実に素晴らしい!』

苦しい…アソコが…私の中が引っ張り出されてしまいそうです…っ

それなのに…っ突かれるたびに、どんどん熱くなって!?

『わかるだろう? 子袋の入り口をこじ開けているのが!』

『ここが、牝の一番美味なところなのだよ!』

『フン!』

『声もいやらしくなってきた。媚薬が効き始めて来た頃か』

『そんな…ごと…っ』

ああぁっ…何かが…昇ってきて…

この感覚、怖い…のです主…さまぁ…っ!!

『なら君の子袋はもう私の子種を受け入れる準備ができている頃だ』

『たっぷり射精させてもらおうじゃないか』

『ひっ！』

『!?』

『お待ちください！』

『君に使った媚薬は協力でね』

『今ころ、君のように未熟で無防備な卵が子袋に向かってるころだろうよ』

『それだけは…!! それだけはゆるしてくださいませっ!!』

『言っただろう君を孕ませると!!』

『だめっ!!』

『なら、今から私が君の主だ!! 安心して受け取りたまえ！』

『『新しい「主」の子種をなっ!!』』

ビクビクビク

『くおおぉっ孕めっ!!』
『孕めぇっ!!』
『あっ!!』
『ああぁっ!!』
『ふう、たっぷり受け止めてくれたねぇ』
私の中に…
…熱いものが一気に流れてきて…っ!!
『でもまだ始まったばかり』
『とりあえず続きと行こうじゃないか』
『君の子袋はどれくらいで堕ちるかねぇ?』
『楽しみだよ』
『ハハハハっ!!』
ぼこぼこ…
ぼこぼこ…
ぼこぼこ…